

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4472800293		
法人名	特定非営利活動法人		
事業所名	グループホームなごみ		
所在地	大分県玖珠郡玖珠町山田2734		
自己評価作成日	平成23年3月11日	評価結果市町村受理日	平成23年5月13日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成23年3月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・専門職の介護に対する質の向上、職員間の連携を大切にし、チームとして利用者9名を支援している。ご利用者様や、また家族の希望にできるだけ沿い、機能的に対応できる。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 食事を楽しむ支援として、利用者の希望を聞き、旬の素材・地産地消に心がけ、食べやすい調理方法や、自立して食べることのできる工夫をしている。
2. 職員は、外部研修に多く出かけて、自発的に学んでおり、認知症ケアの専門性を深めている。また、伝達講習も行い、サービスの質の向上を目指している。
3. 専門職が多く、看護師・社会福祉士・介護士が、利用者本位の支援を目指して、その人らしい生活ができるよう、それぞれの目線で、意見を出し合っている。
4. 災害時の訓練に地域の方が参加し、連携して救助できる体制ができている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+ ) + (Enter+ )です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている	理念について意識づけがされているが実践に繋がっていない。見直しもされていない。管理者としては実践に繋げるように指導している。	玄関の看板にモットーが明記され、誰もが共有でき、地域や訪問した人にも分かるようにしている。また、トイレにも掲示し、一人になった時に振返る場としている。会議でも職員間で話し合い、理念をケアの基本としている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民としての役割等何もしていない。	地域のボランティアの訪問で大正琴・フラダンス・アコーディオン・踊りなど、楽しい交流をしている。小学生が、毎月お宝文庫の本の交換に来て、読み聞かせや紙芝居をしている。防災訓練もたくさんの方々が参加している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	特に何もしていないが人材育成については実習生の受け入れをしている。管理者は地域の方が相談に来所されればお話をさせていただいている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	どんなことが話し合われたのか職員との話し合いはしていない。今後内容をミーティングの中で報告しサービス向上につなげたい。防犯灯を取り付けていただいた。	状況の報告や相談・外部評価・認知症のケア・家族の思い・地域からの意見など、多岐にわたり話し合っている。虐待や身体拘束について、会議で研修している。災害についても、地域代表者から意見が出され、地域で取り組んでいる。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	特に連携はないが運営会議やスプリンクラ - の設置については協力をしていただいている。日頃から密に連携はしていない。	困ったことや分からないことがあれば何でも気軽に相談できる関係ができています。行政担当者・地域包括支援センター・保健センターの保健師に対して、それぞれにアプローチしている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	家族より転落しない為に壁、柵2本付けてと申し出があった場合には行う。記録もする。夜間の施錠は行う。ミーティングや申し送りでの1日のケアを振り返り気付かないうちに言葉をさげざげたり気持ちを抑えた	なごみとしての取り組みを具体化し、運営委員会でもオープンにして、身体拘束をしない介護を目指している。身体拘束で問題解決するのではなく、一人ひとりの精神的な面を把握して、心に寄り添うケアをしている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の気付かないところで心理的・精神的虐待を与えている現状がある。そのようなことが見受けられる時は見過ごさないように努めている。管理者は日々の会話の中で利用者が心理的に負担に思うこと等の		

事業者名: グループホームなごみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会がない。管理者も職員も利用者のアドボカシ - を守るアドボケイト出なくてはならないことを指導している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事業所の役割を説明している。。加算の増減についても公的資料を付け納得を得られるように努めている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会開催時には職員も全員参加し双方の意見交換を行っている。運営会議には家族代表も入り意見苦情を表せる場がある。	家族会を開催して職員と話し合っている。家族の思いを運営推進会議でも伝え、話し合い、改善に取り組んでいる。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時また日頃よりコミュニケーションを図り職員の気付きやアイデアを取りあげていると思っているが把握し切れていないこともありうる。今期パート職員が3名退職したが後、継続して支援していただいている。	職員が積極的に意見を出し、少しでも利用者本位のケアになるよう反映させている。また職員がやりたいことやアイデアを出し、ケアに活かしている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休憩室の確保、喫煙室等充実していない。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	出来るだけ研修の機会があれば参加するように努めている新人には1か月の教育期間を設けて丁寧に指導をしている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流は特にないが連絡会時には今期「拘束について」「看取りについて」を提案し研修時には多くの職員が参加した。		

事業者名: グループホームなごみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で生活状態を把握するた施設のケアマネとご本人にお会いし困っていること等話し合った。又職員が本人に受け入れられるように態度等配慮した。当施設にも見学に来ていただいた。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今までの家族の苦労やサービスの利用状況などゆっくりお聞きしご家族の気持ちを理解しどのような支援ができるかを話し合っている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時にはご本人やご家族の想いをお聞きし相談し出来ることはすぐに実行できないことにも安易に逃げず方策を考えている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	普段の会話の中等でご本人の根本にある苦しみ、喜び、不安等を知ること努め本人の気持ちを分かち合いともに支え合える関係作りに努めている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子や職員の想いを伝え利用者をご家族と一緒に支えていくことの大事さをそれとなくお伝えしている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚、友人等が訪問して下さりお茶をお出しし懇談していただくがこちらから訪問したりはしていない。行きつけの美容院にご家族と出かけた時、甥っ子の床屋にお連れしたりするが丁寧に対応してくれている。	外出した時は、利用者の自宅を廻って帰ったり、馴染みの床屋や銀行・役場など出かけている。選挙の時には要望に応じて、投票所へ同行している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を把握しているが日々、時々変化することもあるので注意見守っている。難聴の方には筆談などで助けてくれた方の名前をお伝えすると「ありがとう」と頭を下げるなど支援している。		

事業者名: グループホームなごみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	もといた施設に利用者と一緒に新聞を持って伺うとお持ちつきが終了したところでおごちそうになりました。またその施設の職員が訪問してくれご本人も喜ばれましたが職員もとても嬉しかったです。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で把握に努めている。言葉や表情などから気持ちを推し量ったりそれとなく確認し、意思疎通の困難な方にはご家族等や関係者から情報を売るようにしている。	毎日の関わりから思いを把握し、更に、家族に対してもアセスメントを行い、きめ細かな要望やニーズを掴んでいる。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの利用者の生活歴や文化を理解するように努めている。御本人の過去や触れられないこともあるため注意をするようにしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズムを理解し本人の全体像を把握し心身の状態、できる力わかる力を発見し共有しケアにつなげていくようにしている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族には日頃のかかわりの中で思いや意見を聞き反映させるようにしている。アセスメントなど職員全員で意見交換やモニタリングを行っている。	毎月個別の短期目標に沿ったモニタリングを行い、ケア会議において、職員全員で話し合っている。その人らしさを重視した支援や、楽しく過ごす支援を、職員が提言し、詳細にプランに盛り込もうとしている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し日々の暮らしの様子や本人の言葉エピソード等を記録している。何時でもすべての職員が悪人できるようにしており勤務開始前の確認は義務づけている。それを介護計画等に反映している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズに対応している。お薬取り、散髪、個人の買い物、緊急受診急な外泊、ご家族の急な施設への宿泊など支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		

事業者名: グループホームなごみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人の体調希望に応じ訪問利用サービスを利用したり出かけたりしているが周りの理解は大変良いと感じている。行政や包括とは特に関係が強化されたとは感じていない。民生委員の訪問もある。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望するかかりつけ医となっている。受診は基本的にはご家族にお願いしている(フロ-シ-等持参)が緊急の場合は施設よりお連れしている訪問診療していただいている方もある。	家族や本人の要望で、かかりつけ医の受診を継続している。定期的な往診を希望する方もおられ、納得のいく診療を受けている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており常に健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。いない時は記録を基に開く実な連携を行っている。適切な医療に繋げている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	事業所内での対応可能な段階で早期退院できるようにアプロ-チしている。情報の提供を行っている。できるだけ折を見て職員がお見舞いに行くようにしている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴う意志確認書を入所時にいただく。気持ちが変わればその都度申し出が可能。看取りについては職員と時間をかけて話し合っているがはっきりしていない。	重度化に向けて、リスクや病状悪化時の対応について、文書で明確にし、話し合っている。看護師の常勤体制もできており、看取りケアについても、状態に応じて話し合い、家族と確認しあっている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員の入れ替わりがありすべての職員が身に付けていない。防災訓練時には地域や連携施設との協力体制ができて3月21日にはAEDを使用した救急訓練を行う予定。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員の入れ替わりがありすべての職員が身に付けていない。防災訓練時には地域や連携施設との協力体制ができて3月21日にはAEDを使用した救急訓練を行う予定。	年2回防災訓練をして、夜間想定訓練も実施している。地域にお願いに回り、10人ほどの人が訓練に参加し、実際に連携して誘導・車椅子利用者などへの対応ができるように訓練をしている。また、水害など予測される災害に対しても対策をしている。	

事業者名: グループホームなごみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	援助するときもまずご本人の気持ちを確かめさりげないケアを心掛けたり自己決定しやすい言葉かけを行っている。情報収集については個別性守秘義務に十分配慮している。	理念に「さり気ない支援」を明示し、声かけも人格を尊重したものとなるよう言葉を考え、選んでいる。利用者一人ひとりの心を大切にするため、介護者の自己覚知を呼びかけている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせて声かけ意思表示の困難な方には表情を読み取ったり小さな動きを見逃さない。難聴の方には白番などを使用し意志疎通を図り自己決定していただけるようにしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが時間を区切った過ごし方はしていない。一人一人の体調や気持ちを尊重し出来るだけ個別性のある支援を行っている。入浴や行事など職員の都合で決めていることもある。美容院に家族がお連れする方もいるが甥っ子の		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人のこだわっているスタイル(帽子やスカーフ)を把握し、その人らしさを保てるように支援している。外出時、行事、誕生日等には少し揃える。一緒に考えることもある。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に料理を作ることや後片付けをすることはない。厨房は別に配置している。お昼の検食や弁当と一緒にたべたりしている。行事時には利用者の希望を取り外注したりする。	食べたい物を食べやすく調理する工夫をしている。旬の食材を家庭的な雰囲気の中で楽しく食べている。身体機能に合った自助具を使い、自分で食べる工夫も見られる。水分摂取もペットボトルにメモリをつけ、量の確認が自然とできるようにしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調と一日の摂取量を把握している。個々に合わせた食事量でご本人の好みのもや食べやすいものを出すようにしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方は声かけ見守り、できない方には毎食後のケアを行っている。一人ひとりの力に応じた歯磨きの手伝いをしている。臭いの取れない方もいる。		

事業者名: グループホームなごみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し尿意を表明できない利用者には時間を見計らってトイレで排泄できるように支援している。さりげない支援や失敗した場合の接し方がうまくできない職員もいる。	トイレに排泄表を掲示し、きめ細かな記入を行うことにより、個々に適した時間の声かけ誘導を実施している。自然排便を促すべく、繊維の多い食材やヨーグルトを摂取し、水分の配慮もしている。オムツの利用者はいない。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	全員が下剤を服用している。下剤や浣腸は個々の状態や頻度となっている。十分な分補給とまではいかないリハビリや運動を毎日しているが息むことにより苦しくなってしまう方もいる。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員の都合で曜日や時間帯を決めている。利用者の負担感、抵抗感は職員全員が理解し支援している。後で入りたい方は希望に沿うようにしている。体調にも配慮している。	1週間に2回の入浴であるが、失禁時は入浴して清潔にしている。状況により部分浴もしている。順番表を作り交代で入浴し公平を保っている。夏はシャワー浴をして汗を流している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠剤を飲んでいる方もいるができるだけ日中の活動を促している。その方のペースで午睡の時間も取り入れている。生活習慣で毎日寝たい方もいる。夜間寝付けない方には温かいものを飲みながら		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成し処方箋のコピーをケ-スごとに整理し職員が把握できるようにしている。服薬時は本人に手渡しきちんと服用できたか確認している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員主導になっている部分もある。職員が仕事を作りお願いし感謝の言葉を伝えるようにしている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	イベント時の外出はあるが積極的に外出していない。天気の良い日には個人の体調を見て外気浴に出る。ご家族の協力は得られていない。	入所者は重度化しており、外部からのボランティアの受入れによるふれあいを大切にしている。暖かい時は、庭先に出て日光浴をし、寒い季節でも外の景色を眺めながら生活の中でリハビリをしている。車椅子でも福祉車両での外出も大切にしている。	

事業者名: グループホームなごみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	出かける時はお金を預かっていない方には施設から少額を持っていただいている。ご本人が希望の品を買い支払っている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて日常的に電話や手紙を出せるように支援している。また、お礼の電話は必ずかけるように支援している年賀状、暑中見舞いは欠かさず支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	暮らしとは無縁の飾り付けで家庭的な雰囲気を壊している。フロアの飾り付けや配置は利用者と一緒に考えて自分の家、自分の部屋との意識を持っていただけるよう支援している。	手作りの雑飾りや身体機能にあわせた手作りの足置き台など、随所に工夫が見られる。くつろぐ空間と食事の場所が区切られ、窓から地域の風景・馴染みの山が一望できる。職員が地元新聞の地元欄を読み楽しく心地よい空間を作るの支援をしている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	いつも同じ場所一か所にまとまって座っている。部屋以外に一人になれる等の場所はないのが現状である。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ほとんどの部屋も変わらない。それぞれに違ったあつらえをしているが寝る場所に限定されている。	一人ひとりがその人らしい生活の継続ができるようにという思いから、各室に大切な物・馴染みの小物などを用意して、筆筒やベッドの配置も工夫している。身体のレベルに合わせ、家族と話し合い、転びやすい位置にマットを敷くなど配慮の配慮が見られる。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの状況に合わせて環境整備に努めている。状態変化があればその都度職員で話し合っている。		